

市民が便利で暮らしやすいまち「スマートシティ伊勢」を考えるワークショップ  
報告書

- 1 日時 令和5年10月18日(水) 18時30分～20時45分
- 2 場所 伊勢市役所 本庁舎 東館5階 5-3・5-4 会議室
- 3 参加者 35名(社会人3名、大学生21名、高専生11名)
- 4 概要 下記のとおり

○ プログラム

- ① スマートシティ伊勢の取組説明及びワークショップ趣旨説明(20分)
- ② グループディスカッション(75分)
- ③ 各グループ発表及び講評(40分)



写真:冒頭の取組説明

○ ディスカッションで出た主な意見

【題目①】スマートシティという言葉からイメージするもの。

○ まち全体のイメージ

近未来的、便利、安全、快適に暮らせる、豊かな生活、かっこいい、綺麗、

○ できることのイメージ

スマホで色々できる、各種無人化や電子決済、情報の可視化、ペーパーレス

○ ネガティブなイメージ

固い、スマホがないと何も出来ない、高齢者に優しくない、情報管理される

○ その他

脱炭素・クリーン・遠隔

**【題目②】 デジタル化が進む中で、伊勢はどんなまちを目指してほしいか。**

- 事故が少なく、子供を守れる安全なまち
- 伝統文化や古いまちなみを残し、新しい技術が交錯するまち
- オーバーツーリズムにならない程度に活性化されたまち
- 電車やバス・タクシーなどの交通機関が充実したまち
- 無人運転や混雑状況の把握がデジタルでできるまち
- 通信環境の整っているまち
- 若者が楽しめ、子育て世帯が暮らしやすいまち
- みんなが平等にサポートを受けられる情報格差がないまち
- お年寄りが困ったときに、若者が助けられるまち
- 積極的に情報を可視化し、利用できるまち(情報発信含む)
- 家にいながら、買い物などいろいろなことができるまち
- ドローンなどを積極的に活用しているまち

**【題目③】 ②を実現するためには何をすべきか。**

- 車が子供を認識して事故が起こらないようにする。
- 交通量や事故の数を分析し、信号を調整する。
- 正しい参拝の順序や方法を案内してくれるアプリの開発
- 観光客向けのオンラインアンケート
- 位置情報を利用した音声での観光地解説
- 混雑状況に応じた観光ルート提案
- デジタルマップ上で、店の営業状況や距離、ごみ箱の位置が分かる
- インターネット上の営業情報などの統一
- 観光客向けの交通機関 IC カード
- バス停やタクシーを待つ場所での運行状況や待ち時間の可視化
- バス目的地での需要計測、AIによるルート検索
- タクシーやバスでの自動翻訳
- 無人化による営業時間の延長
- キャッシュレス決済の導入拡大
- デジタルマップ上への危険な場所や不審者情報の掲載
- 企業誘致(ロボット製作会社など)
- 困っている時に助けを求められることが出来るアプリの開発
- 市民が簡単に改善できることを発信するツールの導入
- 意見が多く集まるように、アンケート時にポイントを付与
- 市民がどうしたらよい街になるかを考え、市に届けられる仕組み
- 高齢者やデジタルが苦手な方へのサポート
- 導入しやすいシステム開発

- 災害時に備えた自給自足できる電力の充実
- 市民のデジタルリテラシーの向上
- 位置情報を活用した様々な情報発信

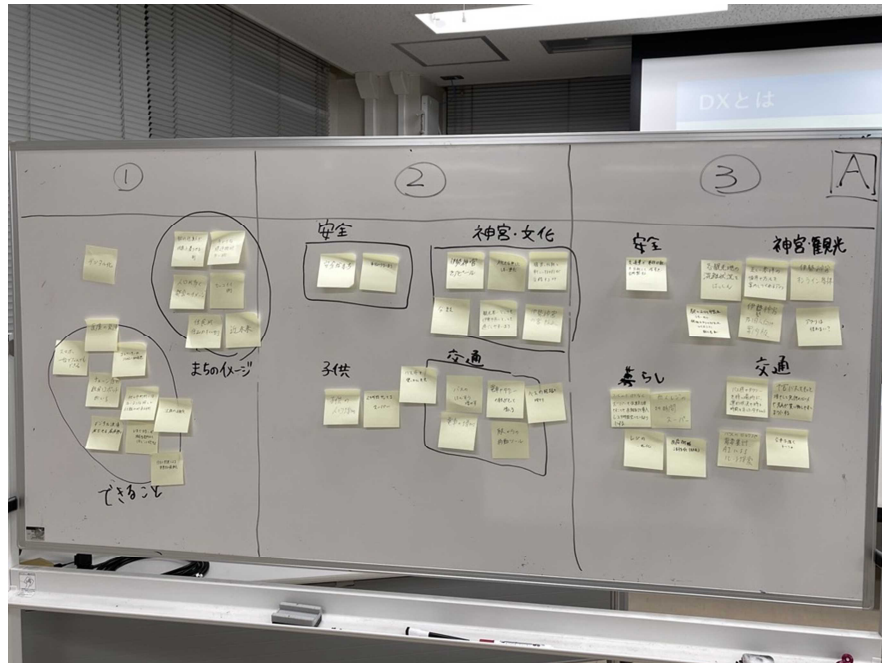


写真: 出た意見



写真: 発表の様子